

えにし通信

vol.11
2017.8.31

滋賀の縁創造実践センター



P1-4 **特集** -モデル事業への取り組みからみる-
福祉の仕事 新たな実践のスタイル

P5-6 連載

しがの子を取り巻く縁

ハローわくわく仕事体験記 宮川パネ工業株式会社
ようこそ!うちの子ども食堂 多文化子ども食堂(草津市)
フリースペース フリースペースさざなみ(彦根市)

P7-8 インタビュー

滋賀県保育協議会会長 中西健さん
現場からVoice めぐみ保育園 藤村めぐみさん

-モデル事業への取り組みからみる-

福祉の仕事

新たな実践のスタイル

「おめでとう」から「ありがとう」まで“人をまん中においた支援”を合言葉に、滋賀の縁創造実践センター(以下、縁センター)では「制度のはざま」となっている問題についてさまざまなモデル事業を実施しています。モデル事業を通して、学び気づき、視野を広げた方のお話を通じて「福祉の仕事」を見つめます。



誰もが地域で 家族と暮らせるように 人と人をつなぐ

CASE

1

家族の負担をなくして 重度障害児者に1回でも多く入浴を



左:小林千鶴さん/相談支援専門員・管理者
(社会福祉法人 くすのき会 相談支援事業所くすのき)
右:廣瀬由希さん/相談支援員・社会福祉士
(社会福祉法人 青い鳥会 相談支援事業所彦根学園)

廣瀬由希さん、小林千鶴さんはそれぞれ湖東と東近江圏域で障害のある方の日常生活を支える相談支援事業所で相談支援員^{*1}として働いています。障害のある方が在宅で暮らす際に、介助の中で最も大変と感じるのが「入浴」です。特に人工呼吸器などが必要な重度障害児者の入浴は、家族に大きな負担がかかります。「行政からはサービスを使って自宅に入浴できるでしょう、とよく言われます。でも、ご自宅のお風呂を想像してください。医療的ケアの必要な方の入浴はご本人を囲んで、ヘルパーさんが2人に看護師さん、さらに呼吸器などの機材を持ち込むので、いくらご本人が子どもさんでも自宅での入浴は非常に厳しいのが現実です」という廣瀬さんの言葉どおり、一般的な家庭の浴室では設備的にプロでも介助が困難です。訪問入浴サービス^{*2}も利用できますが、市町の財政状況により自治体によって利用回数の制限もあり、仕方なく入浴回数が減っていくケースに2人もこれまで悔しい思いをしてきました。



廣瀬さんが勤務する彦根学園の相談室の様子。

モデル事業から市町の事業へ

そうした現場の声をきっかけに、縁センターでは「医療的ケアの必要な重度障害児者の入浴支援」をモデル事業として立ち上げました。機械浴^{*3}の設備がある特別養護老

現場レポート

小林さんの相談支援を通じて実際に医療的ケアが必要な重度障害児の入浴支援を利用しているご家族にお話を聞きました。



細見和沙さん13歳。先天性染色体13番長腕欠損症候群という病気で胎児の時に右脳と左脳が分割できず、障害を持って生まれてきました。自宅で暮らすため生後2ヶ月で気管を切開しました。会話での意思疎通はできませんが、笑顔がとても素敵な女の子です。月に2回、養護学校の下校途中に在宅ケアセンターみのり(東近江市)で入浴支援を利用しています。いつも夫婦で自宅での入浴を

行ってきた母親の由布子さんはこのモデル事業の利用を提案された時、手放して喜んだそうです。「浴槽に入れるのは力のある夫の担当です。今は娘を抱きかかえられますが、娘が成長すると当然、親は加齢により体力が低下します。将来のことも考え、家族以外の介護に慣れるきっかけになればと思います」。体重や身長を制限するための栄養指導や浴室のリフォームという方法もありますが、簡単ではありません。「皆さんに大事にさせていただいて満面の笑みの娘を見るのが何より嬉しいです」という由布子さんの言葉から本人にとっても、家族にとっても大切な時間となっていることがうかがえます。医療的ケアが必要な和沙さんは居宅介護や移動支援のサービスが利用できません。細見さん一

家の前にいつも引かれる制度のボーダーライン。入浴支援が小さくても切れ目になってほしい、切なる願いです。



視界に手をかざすとタッチして手を握り挨拶する和沙さん。笑顔や仕草が周囲の人を和ませます。



右から施設所長の日永めぐみさん、利用者の細見和沙さん、和沙さんの母・由布子さん、小林さん

人ホームなどから設備と場所の提供を受け、既存の制度では自宅にしか行けないヘルパーと看護師を利用者との契約に基づき、自宅外の施設に派遣して実施しています。廣瀬さんと小林さんはそれぞれの担当する当事者の方とこのモデル事業をつないでいます。

障害のある方の中で重度障害児者の割合は数パーセントですが、廣瀬さんが担当する相談者約100名のうちおよそ3分の1は重度の方。医療的ケアによってサービス利用が制限されるケースは決して少なくありません。「対象者が少数で制度からこぼれてしまいがちな方に焦点があてられた、このモデル事業は本当にありがたかった」と廣瀬さんは言います。そして、まだまだ課題はありますが、モデル事業の実績により重度障害児者への入浴支援が2017年度には東近江市で一部事業化され、日野町でも2018年度の実施に向けて動き始めています。

「これで、片道だけでも移動支援がつけば、家族も利用しやすくなって負担はさらに軽減するんですけどね」という廣瀬さん。重度の障害を持つ人も地域で家族と暮らし続ける。その実現に向けて絶えず試行が重ねられています。

分野を越えて支援のサービスをつくる

現場で介護などの支援をしていくつもりで福祉の仕事に就かれた2人。障害者一人ひとりに、必要に応じて相談支援員がつくという国の計画相談の制度が始まったタイミングで相談支援の仕事に携わるようになったそうです。2人と

も相談支援の現場で、相談者の悩みと制度の限界との板挟みでつぶされそうになりながらも、家族のほっとした表情や労いの言葉にやりがいを感じてきました。

しかし、福祉関係者が集まる情報交換の場では同じような課題があがります。「いろいろな会議などに参加したり、縁センターの事業に関わらせていただいて、課題を整理して共有を図ることができるように、発信する役割を担っていかなければと感じるようになりました」と小林さんは相談支援員として自らの新たな役割を見出しています。また他分野との連携は、相談の現場にも新たな視点をもたらしています。「高齢者施設の機械浴槽という社会資源を活かす発想は自分にはないものでした。今後は逆に障害の施設やサービスを他の方に利用してもらおうといったことも考えられるかもしれません」と、廣瀬さんもこれからの分野横断的な支援のあり方にまなざしを向けています。分野の垣根を越えることは困難も伴いますが、協働によるモデル事業で2人が新しい実践のスタイルと自身の役割を見出すことになり、重度障害児者への支援の可能性も広がります。

*1 相談支援員

日常生活上の支援を必要とする障害者やその家族に対し、窓口による相談や家庭訪問による相談などを行う

*2 訪問入浴サービス

専門スタッフ3名(ヘルパー2名と看護師1名)が移動入浴車で浴槽を自宅に持ち込んで入浴介助を行うサービス

*3 機械浴

ストレッチャーを利用して仰向けに寝たままや座ったままの姿勢で入浴できるなど特殊な機械を用いて入浴する方法

高齢者施設の新たなチャレンジ 子どもの笑顔をはぐくむコーディネート

CASE

2



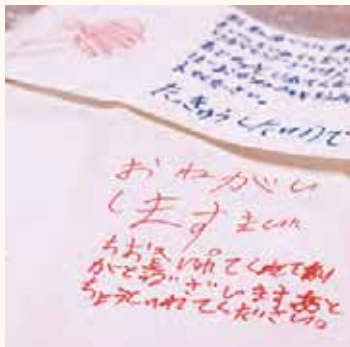
左:大坪博子さん/ケアマネジャー
右:青山ひろみさん/ボランティアコーディネーター

子どもたちの 楽しみにしている木曜日

木曜の夕方。小学4年生と5年生の兄弟がフリースペースアイリスにやって来ます。親が仕事で夜遅く帰宅するため、下校後は2人だけで過ごす日々。そんな兄弟の楽しみは、ボランティアの大人たちと一緒に過ごす週1回の時間。場所は特別養護老人ホーム「近江舞子しょうぶ苑」の談話コーナーです。長机にネット代わりの段ボールを置いて卓球をしたり、カードゲームをしたり。将棋は地域ボランティアの方に教えてもらいました。子どもに関わるのは常時3名ほどと、送迎・卓球・入浴などそれぞれの時間をとるボランティアは10名以上。2016年2月のプレ実施を経てフリースペースを始めた当初、兄弟には荒い言動が見られました。そんな時は頭ごなしに叱らず、なぜいけないかを考える時間を作ったり、具体的な例を示して諭してきました。何度も根気よく。今では挨拶も、ありがとうやごめんなさいの気持ちも、口に出して言うことができるようになりました。



卓球道具購入のために施設スタッフのアドバイスを受けて兄弟が考えた募金。施設利用者や来館者が微笑ましく応援、目標額を達成間近。



フリースペースとはさまざまな事情でさみしさやしんどさを抱える子どもたちの夜の居場所です。地域の社会福祉施設で週に1回、ボランティアの大人たちとのびのびした時間と夕食、入浴をともにし信頼関係を築いていきます。施設職員や地域住民の有志によるボランティア、福祉や教育関係機関がひとつの運営チームをつくり実践しています。

地域で子どもたちを育てる 拠点として

「彼らと一緒に成長していけることがとても嬉しいです。高齢の方も過ごすこの場所だからこそ相手を思いやる気持ちが芽生えたのかもしれませんが、彼らを大事に思う多様な大人との交流を通して、彼らが歳を重ねても自分を大事にすることができると思っています」とフリースペースの開設当初から関わるボランティアコーディネーターの青山ひろみさん。また、ケアマネジャーの大坪博子さんも「最初は場所の提供ぐらいにしか思っていなかったのですが、子どもたちと過ごす時間が楽しくて元気をもらっています。仕事では人生の先輩である高齢の方から、フリースペースでは子どもたちから教わることがあり...すべてが学びです。人対人、心のつながりの尊さを感じています」と、子どもたちに温かなまなざしを向けられていました。



戸惑いながらのスタートでしたが、1年が経ち、フリースペースは大人たちにも変化をもたらしているようです。今では談話コーナーを行き来する施設のスタッフも兄弟に目をかけてくれています。地域で子どもを育てよう、その思いと必要性が木曜日の日誌に綴られていきます。



終業後のしょうぶ苑スタッフを中心に地域ボランティアの協力も得て運営している。

-フリースペース アイリス-

実施施設:特別養護老人ホーム 近江舞子しょうぶ苑
(社会福祉法人 志賀福祉会)

住所:大津市南小松90番地

日時:毎週木曜日 17:00 ~ 20:00

電話番号:077-596-2233 メールアドレス: syoubu@mx.biwa.ne.jp

HP: <http://www.biwa.ne.jp/syoubu/>

“分野・職種を越えるチームづくり”を学ぶ 滋賀の縁塾 皆が集い、語り合う場をめざして ~座談会より~

今回取り上げた2つのケースをはじめとして、分野を越えた協働により新たな視点や気づきを伴いながら心強いつながりが生まれています。このことにより、新しい可能性が広がっています。こうした実践のためのヒントを得る場として、縁センターでは平成26年度より研修会「滋賀の縁塾」を各圏域において開催してきました。この研修は、事例検討を交えながら自他のポジショニングの認識や、問題解決ではなく問題設定することの意義への理解を深めること等を目的としています。今年度は昨年度までの受講者による座談会を開催し、いただいた声をもとに、一層バージョンアップした縁塾を実施しています。



参加者のコメントより

本音で話し合っ共有できる場

支援する側の人孤独しないようにしていきたいです。本音で話し合っ共有できる場を持つことが大切で、さらに色々な立場の人とのつながりを持つことで、より良い支援にもつなげることができると思います。

自分の専門性を再認識

これまで、自分の役割がきちんと見えていなかったと感じました。自分の専門性を理解しつつ、他者の専門性を理解していかなければならないと思いました。

自分の考えを気軽に言える場 同僚にも参加を勧めています

縁塾は、専門職として何か良い答えを他の人に言わないといけない場ではなく、自分の意見を言うだけでよい、気軽に参加できる場です。自分の職場の人にも勧めていて、自分も今後できる限り参加していきたいと思っています。

開催回数を増やして欲しい

縁塾の開催回数を増やして頂きたいです。頻度が増え、つながりやすくなって、より多くの人の意見を聞くことで、自分だけでは解決できないこともつながりをつくっていただける可能性が高くなると思います。

視野が広がりました

元々、自分の仕事の大切さは知っていたけれど、他の方々の話を聞くことで、より一層自分の仕事の大事さが分かり、視野も広がっていただけました。

専門性を深めつつ、広い視野を持つことの大切さを感じました

専門職種が互いに協力しあって、専門性を深めつつ、そこから逸脱してどういう目で見たいけるか。それをこれから学んでいかなければいけないなと思いました。

多職種の人と話す中で自分のしたいことを顧みる機会に

色々な人と話す中で、自分がどういことをしなくてこの職種についてのかを振りかえる機会にもなります。また、多職種の人が集まり、先入観のない雰囲気の中で話し合うことで、ストレスの発散にもなりました。このようにして人と出会う醍醐味を、自分の職場の人にも経験して欲しいと思います。

縁塾、はじまっています

県内4会場で開催する今年度の縁塾は、現在前半となる彦根市会場と高島市会場の日程を終えたところです。研修では検討事例の「現在」抱える課題だけにとらわれるのではなく、「15年前」にも思いを馳せ、そして「15年先」を見据えた支援の在り方について話し合いました。今後の開催日程は、右記のとおり。皆様のご参加をお待ちしています。進化を続ける縁塾にご期待ください！

■ **大津市会場** 明日都浜大津ふれあいプラザ
9月6日(水)13:30~16:00

■ **湖南市会場** 湖南市社会福祉センター
10月12日(木)13:30~16:00

チラシ・申込書は、縁センターHPからダウンロードいただけます。




しがの子を 取り巻く縁

社会の変化とともに、子どもを取り巻く環境も大きく変化しています。子どもにまつわる社会的な課題に対し、縁センターでは、さまざまな角度から取り組みを進めています。この連載では、そうした子どもに関わる現場の様子と思いを紹介します。



ハローわくわく 仕事体験記

児童養護施設や里親のもとで暮らす子どもたちの自立支援として始まった「ハローわくわく仕事体験」も、4年目を迎えました。この夏休みにもたくさんの仕事体験や工場見学をさせていただきました。応援団は現在109企業・事業所が登録！子どもたちの可能性の輪がどんどん広がっています。

「私たちの作るバネは製品に組み込まれ、目に触れられることはほとんどありません。しかし、私たちは生活のあらゆる場面を支えるバネがもつ役割の大きさを感じ、誇りを持っています。これからもバネ作りを通して、お客様の幸せを創造していきます。」昨年度のプロフェッショナルセミナーで、子どもたちに届けられた言葉です。

宮川バネ工業株式会社では、当初から社内の掲示板で事業背景と体験受け入れへの思いを社員に伝え続けてきました。働くことの誇りと幸せ、そして社会に出ることへの安心を子どもたちに届けたい この夏2名が体験・見学をさせていただいた宮川バネ工業株式会社から届いたメッセージを紹介します。




参加した子どもより

1か所目で「働いている人ってこんなに優しいんや」と知ってやる気が出て、今回が4か所目。楽しかったです。いただいた作業用の帽子は帰ったら金庫にしまって宝物にします。早くひとりでちゃんと働けるようになりたいです。



ある日のスケジュール

9:00 ~	工場内見学「会社の中にもいろいろな部署、いろいろな仕事があるんだなあ」
9:30 ~	照明器具のバネの組み立て作業
12:00 ~	昼食
13:00 ~	午前についたバネの確認・梱包作業
15:30 ~	ふりかえりシート記入
16:00	解散「ありがとう！お疲れ様でした」

受け入れ企業より

子どもたちの現状について初めて伺ったとき、このことは私たち大人一人ひとりの問題で、だれもが当事者だと思いました。セミナーでのプレゼンや体験受け入れなど、不安や緊張もありましたが、子どもたちとの交流は発見や感動も多く非常に楽しく、また仕事体験でのひたむきな姿に社員も大変良い刺激を受けたようで、会社としての自信にもつながりました。

子どもが知らない大人たちの中で働くのはとても勇気のいることだと思いますが、彼らにとってこの体験は興味や義務ではなく、将来に直結するもの。その勇気に全力で応えられるよう、皆があなたのことを見守っているよと伝えたいし、地域の心の輪をもっと広げていきたいです。

宮川バネ工業株式会社 専務取締役 宮川絵理子さん



ようこそ！うちの子ども食堂

多文化子ども食堂(草津市)

国籍を問わず、子どもたち一人ひとりを大事にする居場所
「県内の子どもならだれでもおいで！」

毎月違う国の料理を味わうことで、
多文化への理解を広げるきっかけをつくりたい

多文化子ども食堂は、滋賀県内在住の外国籍住民の多様な生活相談や日本語教室、職業紹介などのサポートを行う多文化共生支援センターSHIPSが主体となり、レイカディア大学や滋賀大学教育学部の学生ボランティアとともに運営されています。昨年7月ペルー料理からスタートし、フィリピン、ブラジル、ベトナム、ハンガリー等、毎月違う国の料理を味わい、またその国についての文化についても学ぶことのできる場として、地域の学童に通う子どもたちや県内の外国籍の親子の憩いの場となっています。

まずは握手でコミュニケーション！

「こんにちは！」の挨拶とともに、来てくれる子ども一人ひとりに握手の手を差し出す代表の喜久川修さん。「握手をするときには必ず相手の目を見るし、手に触れると心とあたたかさを通じ

ます。これはどこの国の人でもみんな同じ。はじめは恥ずかしがってた子も、回数を重ねるなかで握手してくれるようになりました。」

国籍をこえた子どもたちの居場所を目指して
～代表・喜久川修さんの思い～

さみしさやしんどさを抱える子どもたちがいるという社会の現状を受けて、国籍を問わず子どもたち一人ひとりを大事にする居場所をつくりたいと思い、この食堂を始めました。次の月も来てくれると、ああ、楽しんでくれてるのかな？と思えるのでうれいいですね。ずっと続けて、つながっていききたいですね。

information

団体名：多文化共生支援センター SHIPS
会場：多文化共生支援センター SHIPS
(草津市草津1丁目13-12)
日時：毎月第4土曜日 11:00 - 14:00
電話番号：077-561-5110
メールアドレス：info@s-h-i-p-s.org



フリースペース



社会福祉施設を利用した子どもの夜の居場所



フリースペースさざなみ

団体名：特別養護老人ホーム さざなみ苑
会場：特別養護老人ホーム さざなみ苑(彦根市城町2丁目13-3)
日時：毎週火曜日 18:00 ~ 20:00 小学生1名が参加

彦根城の近くにある特別養護老人ホームさざなみ苑では、昨年11月からフリースペース開設に向けた彦根市社協との相談が始まり、5月に県内8か所目としてスタートしました。始める前、楽しみのひとつである食事についてアレルギー対応が必要であることがわかりました。子どもからの「おにぎりを自分で持って行ってでも参加したい」、スクールソーシャルワーカーからの「社会性の育みの場として、食事だけでなく、お風呂やおしゃべりなどの関わりを大切にしてほしい」との声を受け、「難しさはあるが、白ご飯だけでも用意するなどしてなんとかあったかいご飯を食べてもらいたい」と施設内で意見がまとまり、今では火曜日の施設全体の食事メニューが子どものアレルギーに対応したものになりました。施設一丸となって子どもを迎えるあたたかなさざなみ苑に、子どもやスタッフの笑い声が響きます。

縁センターは、子ども一人ひとりを大事にする淡海子ども食堂やフリースペース等の居場所づくりをはじめ、制度のはざまとなっている暮らしの困りごとへのチャレンジを続けてきました。これまでの実践の意義と価値、そしてこれからの福祉について、日々保育現場で子どもの育ちと向き合う中西健さんからお話を伺いました。

時代とともに暮らしは豊かで便利になりましたが、人と人の関わりが薄くなったと言われています。子どもが地域の大人たちに見守られて育った昔と現状を比べると、本来の福祉がみえる気がします。

滋賀の縁創造実践センターの設立から4年目を迎えて

谷口 滋賀の縁創造実践センター(以下、縁センター)の実践は滋賀の福祉に何を残していけるのでしょうか。

中西 昔は保育、障害、高齢、各分野の従事者が互いに情報交換する機会があり、地域ではご近所の顔が見えましたが、今は希薄になっています。時代の変化で福祉のニーズが多様化し、各分野に余裕がなくなり、制度のはざまにいる人に手が届かなくなりました。そこで生まれた縁センターは、昔のおせっかいなおちゃんおばちゃんのような存在なんです。人頼みでずっと継続していくことは難しいため、やはり組織でコーディネートしていかないと。縁センターが各分野の枠を越えてつなげてきた「えにし」こそ、これからの福祉のありかたを示しているのではないのでしょうか。

谷口 縁センターは行政の施策でなく、現場での福祉関係者の自覚から立ち上がりました。民間主導だから柔軟な支援ができているのですね。

中西 合理化・効率化を求めて制度の整備が進んできました。それは大事なことですが、どうしてもそこからこぼれてしまうことはたくさんあります。そこへの気づきが分野を越えた協議の場に持ち込まれ、子ども食堂やモデル事業へとつながったことがとても良かったと感じています。

谷口 入浴支援モデル事業を知ったある施設の職員さんが、「これは本当に困っている人のために声をあげていく取り組

滋賀県保育協議会会長
滋賀の縁創造実践センター 副代表理事

中西 健 さん

お話を伺った
えにしびと
縁人



みや、こういう力が弱くなっていたことに気づかされた」とおっしゃいました。

中西 そうした障害分野の困りごとに高齢分野が協力する姿に、他の福祉関係者も気づきを得ているでしょうね。私の子どもの頃は、健常者も障害者も一緒に机を並べて勉強していたし、障害のある子が身近にいることが当たり前で、その子ができないことは皆でカバーしていました。私の両親が忙しくても近所の人が見守ってくれていて、全然知らないおっちゃんに怒られたこともあります。皆が気にかけて合うことはあったかいですよね。今、地域で困っている人は孤立しがちなので、できる人ができることをしていかないと。

谷口 縁センターはバラバラになりがちな福祉現場に5年の期限を設けて投げかけをしてきました。

中西 この志を大切に引き継ぎ、県民運動というねりを起こしていかないといけませんね。小さくても地味でも、逃げずに挑戦しようとする姿勢こそが滋賀の福祉の大きな力だと思います。

人と関わる仕事のプロ意識

谷口 縁センターでは淡海子ども食堂やフリースペースなど、子どもを真ん中においた活動に取り組んでいますが、保育の現場は大切な子ども時代に日々関わっておられますよね。

中西 保育園ではいろいろな家庭のお子さんを預かっています。家庭環境も子どもの個性もさまざまですが、一人ひとりに向き合い、真剣に丁寧に関わることで子どもの育ちが変わっていくのを見てきました。幼少期は人としての基礎を培う重要な時期であると実感しています。

谷口 現場の保育士の方たちの奮闘が目に見えます。

中西 保育士という仕事は体力的にも精神的にも大変な仕事ですが、子どもと一緒に成長できます。一生懸命、子どものことを考えて行動して、その成果を子どもとともに実感できた時、胸が熱くなるほどの感動があります。そんな体験を通して豊かな感性が育成されるのだと思います。先日、うちの保育園の職員がトイレ掃除の際にスリッパの裏まで磨く姿を見て、保護者の方から喜んでいただきました。嬉しかったですね。保育の専門性や能力を具体的に表すことは難しいのですが、「こうしたらあの子が喜ぶかな」「こう声をかけたらお母さんが助かるかな」等、自ら相手を思い、気づき、できることが自然と広がっていくのが人と関わる仕事のプロといえるのではないのでしょうか。

谷口 子ども時代の安心できる大人との出会いが子どもの未来を変えと言われるていますね。

中西 淡海子ども食堂で「美味しかった!」、フリースペースの入浴で「気持ちよかった!」と元気になり、生き方が前向きになる。そんな子どもを増やさないと。福祉は現場が全てです。現場と近い距離で時代とともに変わり続ける現場ニーズを吸い上げる仕組みをもち続けたいといけませんね。縁センターの理念である「誰もがおめでとくと誕生を祝福され、ありがとうと看取られる」社会が当たり前になることを願うばかりです。

聞き手

滋賀の縁創造実践センター所長
谷口 郁美



現場から Voice



藤村 めぐみさん

めぐみ保育園(社福)慈水会 / 彦根市 勤務。保育士10年目で、現在3・4歳児を担当。学生と福祉職員の語り場「ふく・楽café～縁～」でも活躍。モットーは「出会いを大切に」。

子どもの頃の先生や先輩に憧れて

子どものころ通っていた幼稚園の先生がいつも笑顔で優しく、こんな先生になりたいという思いがずっと心の中にあり、自然と福祉の道へ。この園へ実習に来たときに先輩の姿がかっこよくてより一層その気持ちが強くなり、そのまま就職して10年、子どもたちの成長を間近で見られることにやりがいを感じています。

子どもたちと泣いて笑ってバタバタと過ごす毎日、「せんせい～」と寄ってきてくれる姿や、楽しそうに遊んでいる笑顔にパワーをもらっています。

迷い悩む日々にも、一つひとつの出会いに励まされています

福祉は人が相手の仕事だから「これだけが正解」というものはひとつもなく、子どもや親御さんによって声のかけ方や関わり方も違ってきます。だからこそ迷い、悩みながらの毎日ですが、卒園を控えたあるとき保育園での思い出について皆で話していたら、いつもふざけていた男の子が真剣に考えて「ぼくがあかんことをしたら、せんせいが怒ってくれた」と言ってくれたんです。その言葉に「ああ、ちゃんと伝わってたんだ」とうれしくて担任2人で号泣しました。一つひとつの出会いに感謝です

保育士をめざす方へ

子どもたちはとてもまっすぐにぶつかってきます。なかなか思うように気持ちが伝わらずに落ち込むこともありますが、何事にもコツコツとがんばれば自分の力になると思います。

Information

縁センターからのお知らせ

ひろがる つながる 子ども食堂 遊べる・学べる淡海子ども食堂 73か所に!

県内さまざまな実施主体がそれぞれの想いと工夫により運営されている「遊べる・学べる淡海子ども食堂」も、73か所となりました。このあたたかな居場所を始めるための「開設準備講座」に加え、続けていくための工夫を学ぶ「実践者研修会」等の取り組みも始まっています。

実践者研修会(7/18) **New!**



実践者から継続のヒントを学ぶ場を希望される声が多いことを受け、新たに始まった実践者研修会。立ち上げた人の想いをどのように次の世代につないでいくか、関係機関とどうつながるのか等の課題に対し、「きく」と「つたえる」をより丁寧に行っていこうと話しました。

誰もが手に取りたくなる 広報紙をめざして

～えにし通信、リニューアルしました～

この「えにし通信」も、いよいよvol.11の発行を迎えました。5年という期限を切って始まった縁センターの活動も4年目となり、生まれてきたさまざまな実践が県内の皆さん一人ひとりにとってより身近な活動として根付いていくように、このえにし通信も装い新たに生まれ変わりました。本紙の内容はHP上にも掲載しておりますが、ぜひとも手に取ってご覧いただけたらうれしいです。

児童養護施設等で暮らす 子どもたちの社会への架け橋づくり

滋賀のどの施設から巣立っても
気軽に寄れる場所、気軽に相談できる場所

アフターケア事業が8月より試験的に 始まりました!

社会的養護のもとで育った子どもたちが社会に出て、仕事のことやお金のこと、その他いろいろな暮らしのことなどに困った時や何か話を聞いてほしい時に気軽に寄って相談ができる居場所ができました。滋賀県内のどの施設、里親、ファミリーホーム等を退所、卒業しても利用ができます。

社会に出てちょっとつまづいてしまった子、あるいはつまづきそうな子が自立への道を歩んでいくことを、県内で支える取り組みです。

8月より、以下の2か所で試験的にスタートしました。

社会福祉法人 小鳩会

開設日時: 毎週土曜日 14:00 ~ 18:00
相談により随時利用可能

連絡先: 小鳩会 TEL 077-522-2785
小鳩会里親支援 TEL 077-525-0030

メールアドレス: kobato-center@softbank.ne.jp

NPO法人 四つ葉のクローバー

開設日時: 毎週水曜日 12:00 ~ 18:00
随時、予約制で利用可能

連絡先: TEL 077-584-5688/080-6160-4280

メールアドレス: yotubanokuroba2013@yahoo.co.jp

“いきいきゲーム”が引きだす 子どもたちの新たな一面に感動! キャリアアップセミナー

「ハローわくわく仕事体験」への誘いとして開催しているキャリアアップセミナー。今年度第1回は、「いきいきゲーム」という会場をひとつの世界に見立てたビジネスシミュレーションを通じて、社会の仕組みや仕事について学び、自分の得意を発見することを目的に実施しました。楽しみながら積極的にいきいきと取り組む姿が見られました。



～施設職員より～

・社会の縮図を見ているような感じでした。交渉するのが得意な子、作業をするのが得意な子...このゲームを通して自分自身のことで気付くことが多かったのではないかと思います。私たち自身も、見ていて子どもの新たな一面を発見することが出来ました。

・始める前には消極的だった子どもゲームを通して協力し合う体験をし、積極的に発言したり、表情もやわらかかったりと、変化を感じました。振り返りで自分に気付ける機会も良いです。解釈は無数、工夫が変わるなど、今後の生活の中で活かされていくのではないかと感じます。

滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

平成29年8月20日現在

団体会員

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会、一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会、一般社団法人 滋賀県介護福祉士会、一般社団法人 滋賀県保育協議会、公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会、公益社団法人 滋賀県社会福祉士会、公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会、滋賀県介護サービス事業者協議会連合会、滋賀県介護支援専門員連絡協議会、滋賀県里親連合会、滋賀県児童福祉入所施設協議会、滋賀県社会福祉法人 経営者協議会、滋賀県障害者自立支援協議会、滋賀県民生委員児童委員協議会連合会、滋賀県老人福祉施設協議会、滋賀県市町社会福祉協議会会長会、社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会、社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会、医療福祉・在宅看取りの地域創造会議、レイカディアエにしる会、滋賀県救護施設協議会、淡海フィランソロピーネット

法人会員

【大津】一財 博愛会、(福)青桐会、(福)穴太福祉会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、(福)大津市社会福祉事業団、(福)大津ひかり福祉会、(福)おほみ福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、(福)共生シンフォニー、(福)桐生会、(福)幸寿会、(福)好和会、(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同仁会、(福)志賀福祉会、(福)真盛園、(福)新緑会、(福)夕陽会、(福)膳所福祉会、(福)石光山会、(福)禅心福祉会、(福)せんだん二葉会、(福)つばさ会、(福)春風会、(福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)楽樹

【湖南】(福)あけぼの会、(福)永山会、(福)恩賜財団済生会、(福)恵愛会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、(福)慈恵会、(福)すぎのこ保育園、(福)聖優会、(福)バレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、(福)守山市社会福祉協議会、(福)守山向日葵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)友愛、(福)よつば会、(福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会、(特非)草津市心身障害児者連絡協議会、(特非)ものわずれカフェの仲間たち

【甲賀】(福)あいの土山福祉会、(福)芦穂会、(福)近江ちいろば会、(福)近江和順会、(福)大木会、(福)おさなご会、(福)甲賀会、(福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、(福)信楽福祉会、(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、(特非)NPOワイワイあぼクラブ

【東近江】(福)阿育会、(福)一善会、(福)近江兄弟地塩会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー(GLOW)- 生きることが光になる～、(福)恵泉会、(福)湖東会、(福)さくら会、(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)八宮会、(福)八幸会、(福)万松会、(福)東近江市社会福祉協議会、(福)日野町社会福祉協議会、(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)雪野会、(福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会

【湖東】(福)愛荘町社会福祉協議会、(福)あすなろ福祉会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)惟の実会、(福)慈水会、(福)白露会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、(福)稲朋会、(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)ノゾミ会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)彦根福祉会、(福)ふたば会、(福)みつば会、(福)三つ和会、(福)ゆたか会、(福)若葉会

【湖北】(福)柏葉会、(福)カトリック京都司教区カリタス会、(福)光寿会、(福)光悠会、(福)湖北真幸会、(福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、(福)長浜市社会福祉協議会、(福)ははのくに、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんでん

【高島】(福)大阪自強館、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)はこぶね会、(福)ゆたか会

【県域】(福)滋賀県社会福祉協議会

個人会員

上野谷 加代子、故 山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 良恵、疋田 由香里、上村 文子、尾畑 聡英、山元 浩美、北居 理恵、松本 敦三、森本 美絵、奥田 与嗣男、西村 孝実、中根 超信、村上 浩世、平井 佑希

賛助会員

元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、一般社団法人きれいや総研 滋賀中央センター、株式会社彩生舎

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成29年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,320万円	1,800万円	
	後遺障害保険金		1,320万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ			
賠償責任	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ		プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ			350円	510円
		天災タイプ() (基本タイプ+地震・噴火・津波)	500円	710円

http://www.fukushihoken.co.jp

ぶくしの保険

検索

(天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、天災危険担保特約条項、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。)

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険 オプション)

このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

滋賀の縁創造実践センターとは



[えにしちゃん]

分野や所属を越えた福祉関係者の集まりです。滋賀に暮らすだれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られるまで、生き生きと地域のなかで暮らすことを支える実践をすすめています。

お問い合わせ

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 滋賀県社会福祉協議会内
[Tel] 077-569-4650 [Fax] 077-567-5160
[Mail] enishi@shigashakyo.jp
[HP] <http://www.shiga-enishi.jp>
[Facebook] <http://www.facebook.com/shiganoenishi/>